

高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年9月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第35週(8月29日～)から第39週(～10月2日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における9月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると30.78で8月の30.51と比べて横ばいだった。同時期を過去10年間で比較すると、コロナ後の3年間で比べると年々増加し、平年並みの数字となった。

1位は手足口病で4週換算値が12.14(8月1位11.99)、2位は感染性胃腸炎で8.03(同2位7.58)といずれも横ばいだった。3位はRSウイルス感染症で5.65(同3位6.46)と減少した。4位はヘルパンギーナで2.76(同4位2.67)と横ばいだった。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.17(同6位0.87)、6位は突発性発疹で1.04(同5位0.94)とともに増加した。

〈全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

パンデミックが始まって2年半を経て、9月26日から全国一律で、全数把握の方式が見直されることになった。これまでは、全ての陽性患者の発生届を医療機関が作成し保健所に提出して、保健所から患者に療養の方法について指示していた。26日からの変更は、65歳以上の者や入院が必要な者など、重症化リスクが高い患者に限定して、発生届が提出される仕組みとなった。したがって、重症化リスクの低い者の発生届については、新たに設置した「陽性者フォローアップセンター」に、患者自身で提出することになった。これにより、低リスクの陽性者については申告漏れが起きると予想され、患者数の評価には注意が必要である。

α株やδ株に比べて、肺よりも上気道で増殖し、重症化しにくい、潜伏期間が短く、強い感染力をもつオミクロン株(ο株)が2022年1月に第6波を引き起こし、2月のピーク以降は高止まりした。以後も一貫してこのο株が流行しているが、亜種がBA.1.1→BA.2→BA.5へと主流が置き換わるたびに感染力が強まっている。7月には第7波が到来し感染者数が激増した。日本では世界一コロナ患者数が多い不名誉な8月を過ごし、遅れて死亡者数増加が顕著となった。9月になってようやく減少に転じた。

日本ではこれまで全数報告であったが、9月26日から報告方法が変わった。海外においてもまた報告数は正確性が落ちてきている可能性が高い。世界的には、患者数は6億1千7百万人、死亡は654万人を超えた(図1;10月3日時点)。患者数を国別にみると、1位米国(9,639万人、人口あたりの感染率29.12%)、2位インド(4,459万人、感染率3.23%)、3位フランス(3,560万人、感染率54.55%;感染率トップ)、4位ブラジル(3,467万人、感染率16.31%)、5位ドイツ(3,338万人、感染率39.85%)、6位韓国(2,483万人、感染率48.43%)、7位英国(2,389万人、感染率35.20%)、8位イタリア(2,252万人、感染率37.26%)、9位日本(2,134万人、感染率16.88%)、10位ロシア(2,074万人、感染率14.22%)である。

日本の患者数を図1右に示す。2021年4月～6月はα株、7～8月はδ株の流行による患者急増と死亡がみられた。9月以降は増加がゆるやかとなり、ワクチンの効果と思われた。しかし、2022年に入ってο株による感染爆発(第6波)が起きた。月間感染者数は2月約200万人、3月約140万人、4月約120万人、5月約100万人、6月約50万人、BA.5が主流株にかわって第7波を形成し、7月は約350万人、8月は約600万人でピークとなり、9月は約230万人と減少に転じた。10月3日現在の国内感染者は21,345,939人、死亡者数は先月から約3,700人増えて45,018人となった。

COVID-19は高齢者ほど重症化しやすいが、第6波以降に致死率が低下した。δ株が流行した昨8月-9月までと、ο株による第7波までとで致死率を比較すると、80代以上 約14.0%→3.3%、70代 約5.0%→1.0%、60代 約1.4%→0.2%と低下しており、ο株になって明らかに軽症化している。

経時的な年齢階層別患者数を図2Aに、9月20日の時点で累積感染者数が人口に占める割合を図2Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、10歳未満がトップで26.02%(100人当たり26.02人が感染済み)、次いで10代が23.03%、20代が22.75%

と10代と20代の順位が入れ替わり、30代20.58%、40代15.73%と続いている。パンデミック当初は「おとなの感染症」であったが、 \circ 株になって「年少者ほどかかりやすい感染症」に変わった。

寒冷期を過ごした南半球の諸国では、コロナ前の規模のインフルエンザの流行があり、コロナの流行も同時にみられたという。日本でも今冬は3シーズンぶりにインフルエンザの流行が起きると予想されており、インフルエンザワクチン接種もさかんに勧奨されている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	35週	36週	37週	38週	39週	計
1	手足口病		3.74	3.77	3.42	2.26	1.98	15.17
2	感染性胃腸炎		2.10	2.15	2.14	1.64	2.01	10.04
3	RSウイルス感染症		1.44	1.60	1.60	1.24	1.18	7.06
4	ヘルパンギーナ		0.89	0.88	0.80	0.43	0.45	3.45
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.28	0.29	0.30	0.26	0.33	1.46
6	突発性発疹		0.27	0.27	0.27	0.22	0.27	1.30

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

日常的感染症は前月よりも少し増加したが、依然として低調である。高知県における9月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると18.53と8月の16.93に比べて横ばいで、全国よりも少なかった（表2）。過去10年の同月で比べると2020年に次いで2番目に少なかった（コロナ前の2019年以前は20～40台）。昨年は7月に爆発的なRSウイルスの流行があったが、今年の流行規模は大きいものではない。RSウイルスに臨床的にもウイルス学的にも類似した、ヒトメタニューモウイルス感染症も流行している（定点疾患ではない）。

1位はRSウイルス感染症で8.48（同2位4週換算値5.56）と増加し全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で5.54（同1位6.14）、3位は手足口病で2.66（同3位2.43）と、いずれも横ばいで、全国よりも少なかった。4位はヘルパンギーナで0.75（同5位0.86）、5位は突発性発疹で0.71（同6位0.83）といずれも減少し、全国よりも少なかった。6位はA群溶血性レンサ球菌で0.38（同9位0.26）と増加したが全国よりも少なかった。

<高知県のCOVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図3に示す。2021年8月は東京五輪とともに急増し計1,382人まで増加した（8月25日に1日最多の111人）が、秋の小休止をはさんで、2022年1月から急増し第6波に突入（2月11日に最多の311人）した。3月、4月と小幅に減少したが、GWで5月は再び患者数増加に転じ、5月10日に最多の366人を記録し、5月は合計6,178人と月間最多となった。6月は3,055人で半減した。第7波の7月は、1日最多を5回塗り替え、月間最多数の12,898人を記録した。8月に入って増加に拍車がかかり、1日最多は7回塗り替られて8月24日には2,031人/日を記録、8月は計41,335人であった。その後、8月下旬によりやく減少に転じ、9月は15,416人となった。

10月3日時点では感染者は100,580人となり先月から1万人以上増えた。死亡は先月から29人増えて296人となった。8月以降の死亡数の増加は患者絶対数の激増に加えて、高齢者の感染者割合が増加した（図6）ことが原因と推測される。集団発生（クラスター）は、GW後と6月下旬と8月にピークがあり（図5）、8月は高齢者施設と医療機関での発生が増加し、高齢感染者割合の増加をもたらした。9月は減少に転じている。

2022年2月以降に高知県で検出および解析されたウイルス変異株の内訳を図5に示す。1月上旬の大半は δ 株であったが、1月中旬以降に \circ 株（BA.1）が増加し、主たる流行株に置き換わった。3月中旬から \circ 株の亜種であるBA.2が増加し、4月以降に主流株に置き換わった。亜種BA.5が6月22日に県内で初めて検出され、7月中旬から9月までの主流株に置き換わっている。

県の対応ステージは、2021年8月19日に「非常事態（紫）」に引き上げられたが、10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられ、さらには、2月12日～3月6日まで本県に「まん延防止等重点措置」が適用された。3月24日には病床利用率の低下を受けて「警戒（オレンジ）」に引き下げられた。7月の第7波で、「最大確保病床の占有率」が40%を超え、7月29日に「警戒」から「特別警戒」

（赤）」に、さらには8月16日に最も厳しい「当別対策（紫）」に引き上げ、同時に「BA. 5対策強化宣言」を
 出した。8月下旬以降に患者数減少したので9月16日には、「BA. 5対策強化宣言」を終了し、「特別警戒（赤）」
 に引き下げ、さらに10月6日には「警戒（オレンジ）」に引き下げた。

第7波の感染拡大のために、一時は発熱外来が混雑し受診が難しくなった。県は、8月5日に、有症状者（重症
 化リスクのない65歳未満の者）に抗原定性検査キットを配布し、受診せずに自ら検査する体制を整えた。これに
 より、発熱外来診療に若干の余裕が生まれ、有効な施策であった。

コロナワクチンについては、3回目のブースター接種が進められ、3月から5-11歳の小児への接種が開始され
 た。表3に示すように、県下で2回接種を済ませた者が83.6%、3回目接種を受けた者が67.1%に昇っている。ま
 た4回接種を受けた者（60歳以上）も66.0%となった。さらに、o株対応の新たなワクチンも接種が始まる予
 定である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	35週	36週	37週	38週	39週	計
1	RSウイルス感染症		1.70	1.93	2.30	2.11	2.56	10.60
2	感染性胃腸炎		1.33	1.67	1.89	0.70	1.33	6.92
3	手足口病		0.85	0.63	0.59	0.56	0.70	3.33
4	ヘルパンギーナ		0.26	0.15	0.19	0.19	0.15	0.94
5	突発性発疹		0.37	0.11	0.04	0.11	0.26	0.89
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.07	0.04	0.11	0.07	0.19	0.48

図1,2022年10月3日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

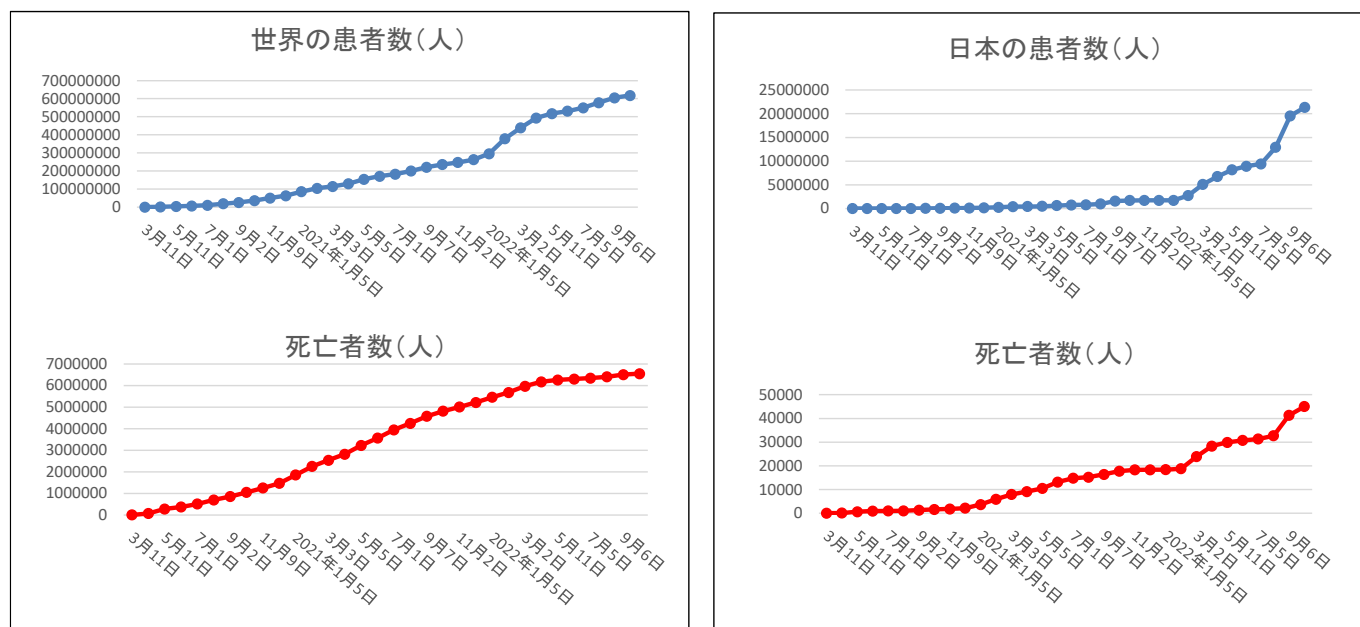


図2A.2022年年齢別感染者数の推移(R4.9.20時点)

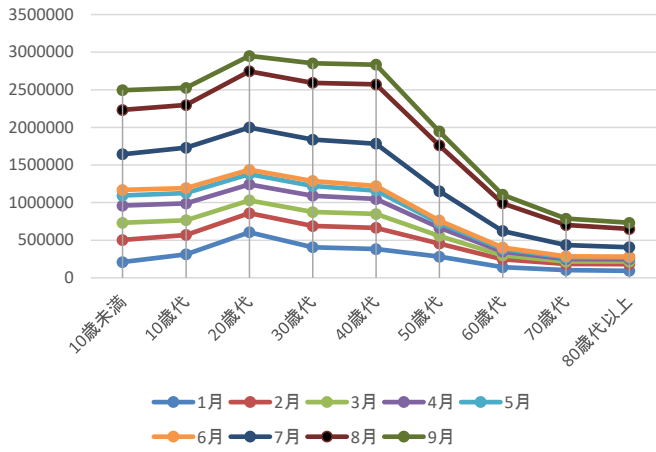


図2B.年代階層別感染者割合(R4.9.20時点)

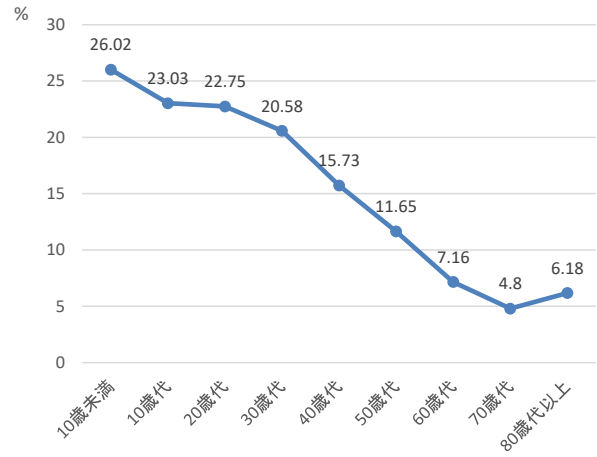


図3. 高知県のCOVID-19月別患者数(上)と死亡者数(下) ~2022年9月30日

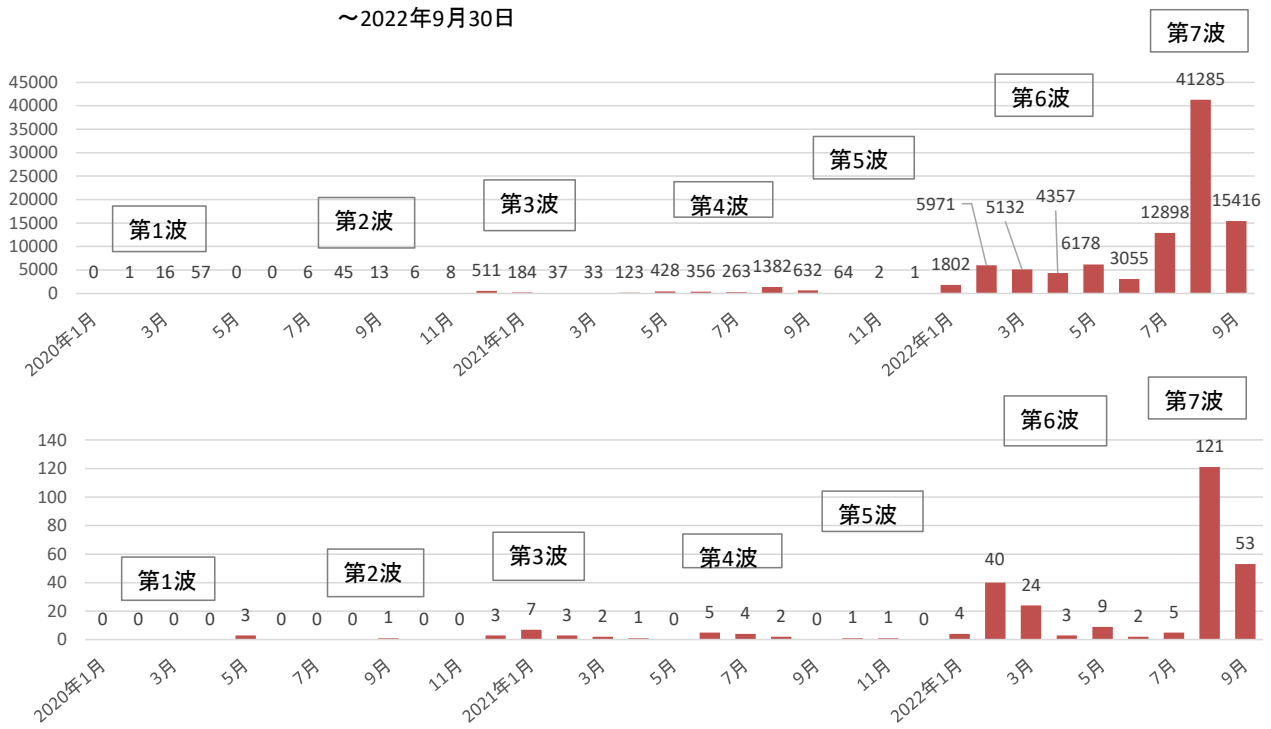


図4. 県下のCOVID-19集団発生件数(2022年)

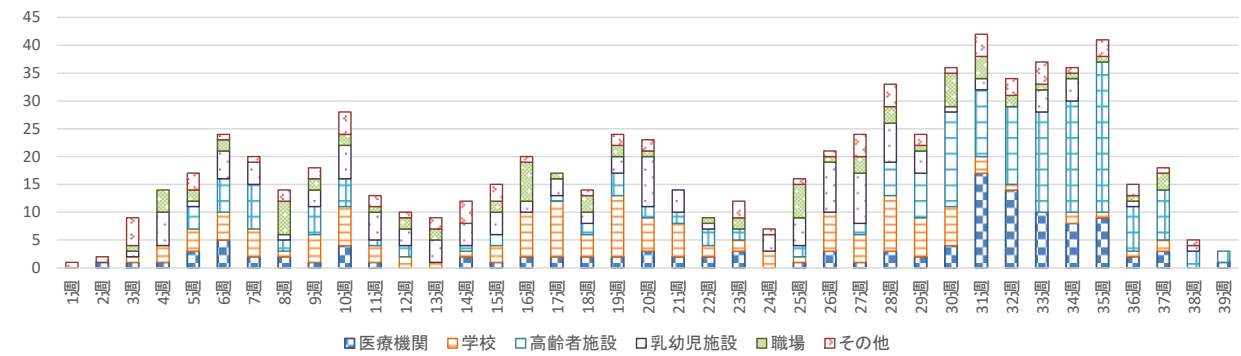


図.5 高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

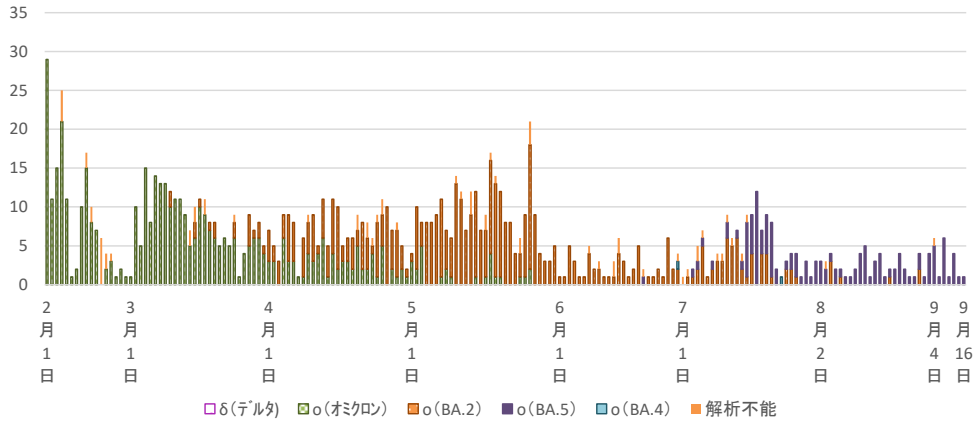
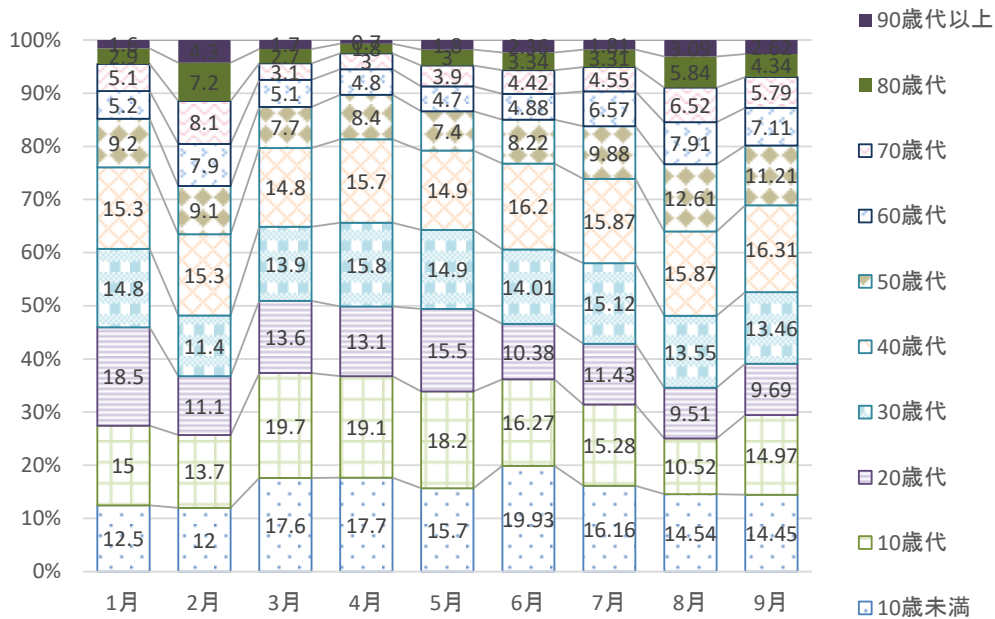


表3. コロナワクチンの接種率 (2022年10月2日時点)

	2回接種	3回接種	4回接種
全国(5歳以上)	84.2%	67.5%	70.1%
県全体(5歳以上)	83.6%	67.1%	66.0%

4回目の接種については60歳以上

図.6. 高知県COVID-19患者の年齢別比率



2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告なし。パンデミックによる衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての病原体を検出する事業を1月から休止している。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2名 (8月 3名)。2020/21年に続いて2021/22シーズンも流行がなく、これは統計がある1998年以降で初めてである。しかし、寒冷期を過ごした南半球諸国では2年ぶりに、コロナ前の水準でインフルエンザの流行が起きていることは示唆的である。中央東で2名 (4歳児と10代後半の例) が報告された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名 (8月 31名)。4月までは多めで推移、5月は平年並み、6月は増加して過去10年間では2019年に次いで2番目の多さ、7-8月は平年並み、9月は過去10年間で2015年に次いで2番目に少ない報告数であった。幡多、高知市、須崎、中央東から表記の順に多く報告された。アデノウイルスとの関連が否定できない小児の重症肝炎が世界的に報告されており注目されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 13名 (8月 7名)。7月以降は過去10年間で最も報告数が少ない。須崎、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 187名 (8月 170名)。同時期としては平年並みの報告数だった。県下全域から報告があり、高知市、安芸、中央東が特に多かった。

5) 水痘

報告数 6名 (8月 11名)。8月に続いてここ10年で最も少なかった。幡多、中央東、高知市から各2名が報告された。

6) 手足口病

報告数 90名 (8月 67名)。例年は5-6月に流行が始まるが、今年は遅れて8月に流行が始まり、流行規模は大きくない。安芸以外の地域から報告があり、高知市が特に多かった。

7) 伝染性紅斑

報告数 7名 (8月 1名)。2020年9月以降は一桁の少ない報告数が続いているが9月は増加した。中央西、高知市、中央東から報告された。

8) 突発性発疹

報告数 24名 (8月 23名)。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 25名 (8月 24名)。8月から流行が始まったが規模は小さい。同時期としては過去10年で2020年に次いで少ない報告数だった。高知市、中央西、須崎、中央東から報告された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 0名 (8月 0名)。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、7月以降も最少の報告数が続いている。

11) RSウイルス感染症

報告数 286名 (8月 154名)。コロナ流行が開始した2020年は、11月～3月に異例のゼロが続いた。2021年は5月から流行が始まり、7月に頂値1,543名を記録し、夏の大流行となり10月以降は終息した。2022年は、7月から流行が始まり昨年に比べると緩やかに増加している。県下全域から報告されており、特に多かったのは、高知市、幡多、中央西である。臨床症状が酷似するヒトメタニューモウイルスも8月末から流行しており、定点報告疾患ではないので評価は難しいが、RSウイルスに匹敵する、あるいはそれを上回るような流行となっている可能性がある。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (8月 2名)。高知市で1名が報告された。

13) 細菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 1名 (8月 0名)。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。中央東から70歳以上の高齢者が1名報告された。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 0名）。従来は年間20－30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく、2022年もゼロが続いている。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 0名）。2020年11月以降、同時期として過去10年間で最少が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名（8月 21名）。平年並みである。幡多、高知市、中央東、安芸から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（8月 0名）。年1-2名の報告が続いており、2022年は1名である。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和4年9月）

類型	病名	報告月									総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2	結核	6	5	8	6	4	9	1	3	7	49
3	腸管出血性大腸菌感染症							2			2
4	E型肝炎				1						1
	重症熱性血小板減少症候群			1						3	4
	日本紅斑熱					1	1	1	1	5	9
	レジオネラ症	1					2		2	1	6
5	アメーバ赤痢	2					1				3
	ウイルス性肝炎					1					1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			1		1	1		1	1	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1						1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1						3
	後天性免疫不全症候群						1			1	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1								2
	侵襲性肺炎球菌感染症			2							2
	水痘（入院例に限る）			1		2					3
	梅毒	2	4	4	6	2	5	2	4	6	35
	播種性クリプトコックス症						1		1		2
	破傷風			1					2		3
	百日咳					1				1	2
総計		12	11	19	15	12	21	6	14	25	135

高知県感染症情報 月報(62定点医療機関)

2022年

9月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ		2					2	3		
小児科	咽頭結膜熱		1	5		1	3	10	31	12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	3		6	2	13	7	35	
	感染性胃腸炎	17	52	93	1	4	20	187	170	153	
	水痘		2	2			2	6	11	12	
	手足口病		14	57	4	2	13	90	67	361	
	伝染性紅斑		2	4	1			7	1	3	
	突発性発疹	2	2	15	1	2	2	24	23	33	
	ヘルパンギーナ		1	19	3	2		25	24	127	
	流行性耳下腺炎									4	
	RSウイルス感染症	8	32	183	15	1	47	286	154	193	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	2	3	
STD	性器クラミジア感染症			4				4	2	7	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症			1				1		4	
基幹	細菌性髄膜炎		1					1		1	
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎										
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			1				1	1	1	
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	1	2	16			5	24	21	20	
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計		28	113	404	25	18	94	682	517	969	
前月		10	90	294	31	29	63				
前年同月		37	137	342	73	81	299				
小児科定点数		2	7	11	2	2	5				

高知県感染症情報 月報(62定点医療機関)

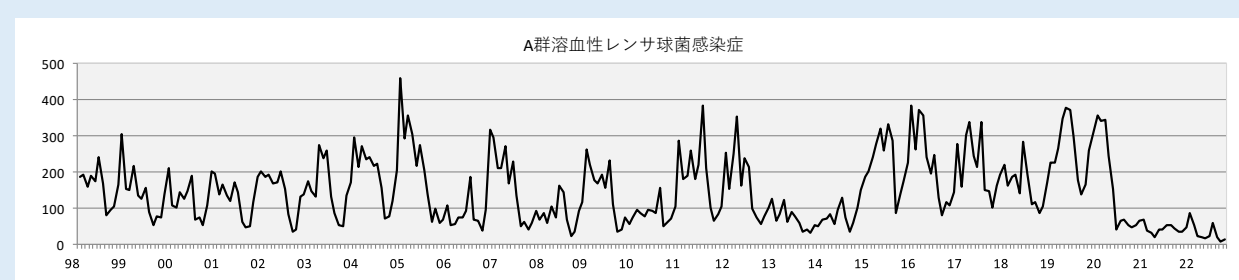
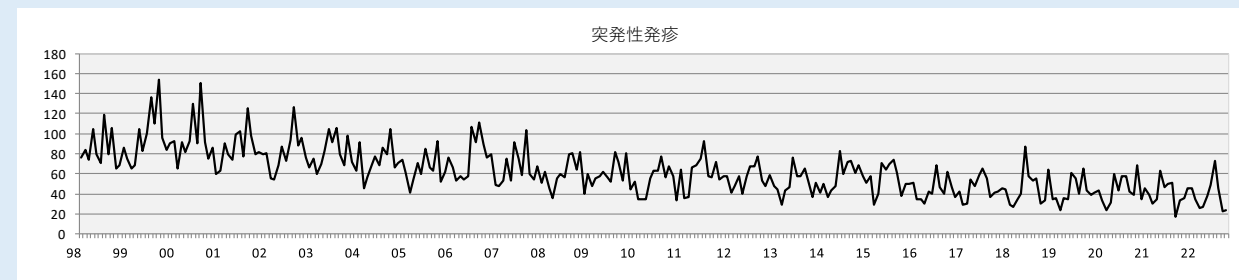
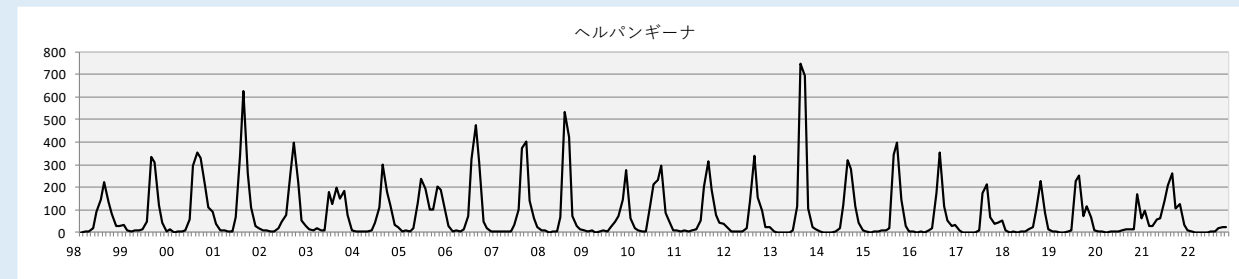
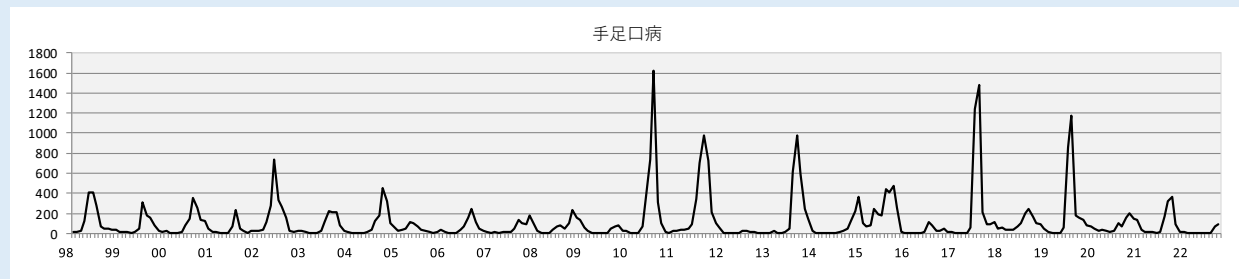
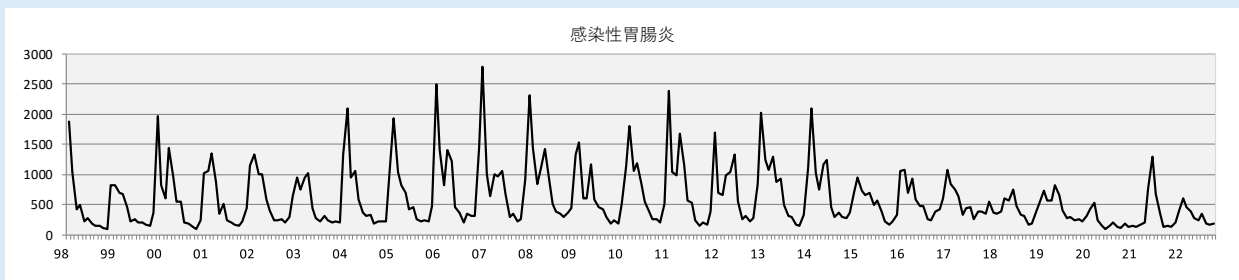
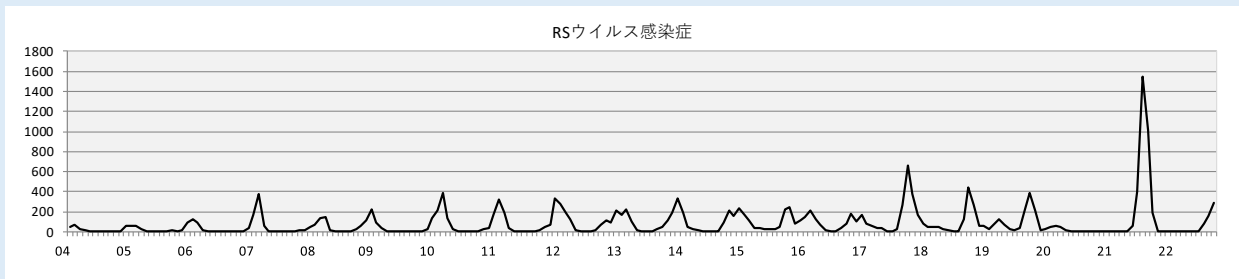
2022年

9月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ		0.18					0.04	0.06	
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.55		0.50	0.60	0.36	1.11	0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.28	0.33		3.00	0.40	0.48	0.26	1.24
	感染性胃腸炎	8.50	7.43	10.34	0.50	2.00	4.00	6.92	6.14	5.45
	水痘		0.29	0.22			0.40	0.23	0.40	0.43
	手足口病		1.99	6.33	2.00	1.00	2.60	3.33	2.43	12.89
	伝染性紅斑		0.28	0.44	0.50			0.26	0.04	0.12
	突発性発疹	1.00	0.28	1.67	0.50	1.00	0.40	0.89	0.83	1.17
	ヘルパンギーナ		0.14	2.10	1.50	1.00		0.94	0.86	4.53
	流行性耳下腺炎									0.15
	RSウイルス感染症	4.00	4.57	20.33	7.50	0.50	9.40	10.60	5.56	6.90
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.66	1.00
STD	性器クラミジア感染症			2.00				0.67	0.33	1.17
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症			0.50				0.17		0.67
基幹	細菌性髄膜炎		1.00					0.13		0.13
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎									
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			0.20				0.13	0.13	0.13
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	1.00	2.00	3.20			5.00	3.00	2.63	2.50
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌 感染症									
小児科定点分計		13.50	15.58	42.31	12.50	9.00	17.80	24.05	17.69	33.32
前月		4.75	12.57	30.22	11.65	14.50	12.00			
前年同月		18.50	19.01	34.63	24.31	40.50	59.40			

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																					総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	49	1924
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	49	1924
3	コレラ	1					1						1													3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2						27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		2	209
	腸チフス		1						1									1				1				4
	パラチフス	2																								2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	2	245
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			2				34
	E型肝炎											1		1								2	1		1	6
	オウム病			1		1														1						3
	Q熱	1	1	2				1																		5
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	4
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1		94
	デング熱												1			3	2	1					2			9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	9	220
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1													6
	マラリア								2					1									1			4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	6	95
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1					9
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	20	542
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	3	51
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1				2	1	1	2	2	63
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	5	130
	急性弛緩性麻痺																					1	2			3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1		22
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		1	36
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5	3	36
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		2	83
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1						1					8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	2	27
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	2	109
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3	3	16
	髄膜炎菌性髄膜炎									1																1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	35	362
	播種性クリプトコックス症																			1	3	5			2	11
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	3	39
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1		1					5
百日咳																					173	172	35	3	385	
風しん										1	1			4	9	1					3				19	
麻しん											5														5	
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	64	1411
新型	新型インフルエンザ												34													34
	新型コロナウイルス感染症																							663	3505	4168
	計												34										902	3505	4441	
動物	鳥インフルエンザ																								1	1
	計																								1	1
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	135	8564